

## 第3回 物部川清流保全推進協議会合同部会

開催日時：平成22年3月19日（金曜日）

10:00～12:00

開催場所：高知県立青少年センター

2階 青少年ホール

### 1 開会

### 2 参加者紹介

### 3 議題

- ・ 物部川に係る水収支・流量配分の経時的な変化について（報告）・・・資料1、2
- ・ 物部川清流保全推進協議会部会の運営について・・・資料3～5
- ・ その他

# 第3回物部川清流保全推進協議会部会出席者名簿

2010/3/31 14:59現在

## 1 物部川清流保全推進協議会

	所 属	職 名	氏 名	備 考
1	高知大学農学部	教授	大年 邦雄	会 長

## 2 流域団体

	所 属	職 名	氏 名	
1	南国市商工会	—	欠 席	
2	香美市商工会	—	欠 席	
3	香南市商工会	経営指導員	朝比奈 安彦	
4	JAとさかみ	代表理事専務	西村 正	
5	JA長岡	—	欠 席	
6	JA南国市	—	欠 席	
7	香美森林組合	—	欠 席	
8	物部森林組合	—	欠 席	
9	物部川土地改良区連合	—	欠 席	
10	山田堰井筋土地改良区	理 事	安井 正興	
		事務局長	植野 寛	
11	高知県漁業協同組合	—	欠 席	
12	ごみのない物部川をつくる連絡会	代 表	横田 日出子	
13	アクアリプルネットワーク	座長	岩神 篤彦	
14	物部川漁協	参 事	平野 寛憲	

## 3 流域自治体

	所 属	職 名	氏 名	
1	香美市企画課	課 長	濱田 賢二	
		主 事	小松 晶秀	
2	香南市企画課	課 長	田内 修二	
		主 幹	岩元 真理	
3	南国市企画課	主 幹	中村 俊一	

## 4 国

	所 属	職 名	氏 名	
1	高知河川国道事務所	調査課長	森 和夫	
2	四国森林管理局	計画課(森林施業調整官)	隅田 雄二	
3	高知中部森林管理署	署 長	小松 敬	

## 5 高知県

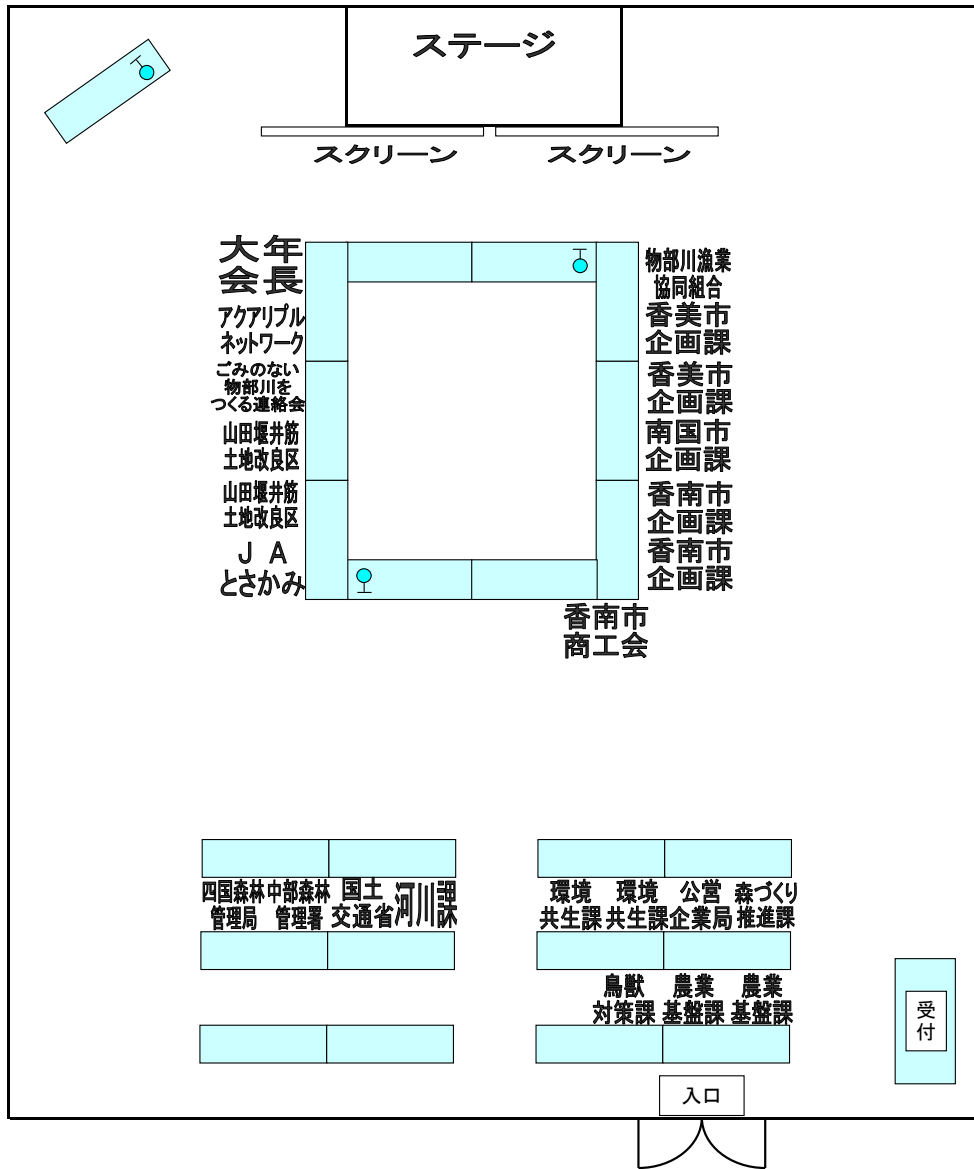
	所 属	職 名	氏 名	
1	鳥獣対策課	課 長	井上 清	
		チーフ	芝 和孝	
2	森づくり推進課	チーフ(森林計画担当)	谷内 一	
3	農業基盤課	チーフ(設計積算担当)	深田 泰三	
		主 任	曾我部 敏彦	
4	河川課	チーフ(治水水利担当)	竹崎 幸博	
5	公園下水道課	—	欠 席	
6	漁業振興課	—	欠 席	
7	公営企業局 電気工水課	課長補佐	畠中 伸也	
8	環境共生課	課長補佐	永野 英志	
		チーフ(四万十川・清流担当)	片岡 尚男	
		主 幹	甲藤 広一	

# 第3回物部川清流保全推進協議会部会

## 配席図

日時：平成22年3月19日(金) 10:00~12:00

会場：高知県立青少年センター



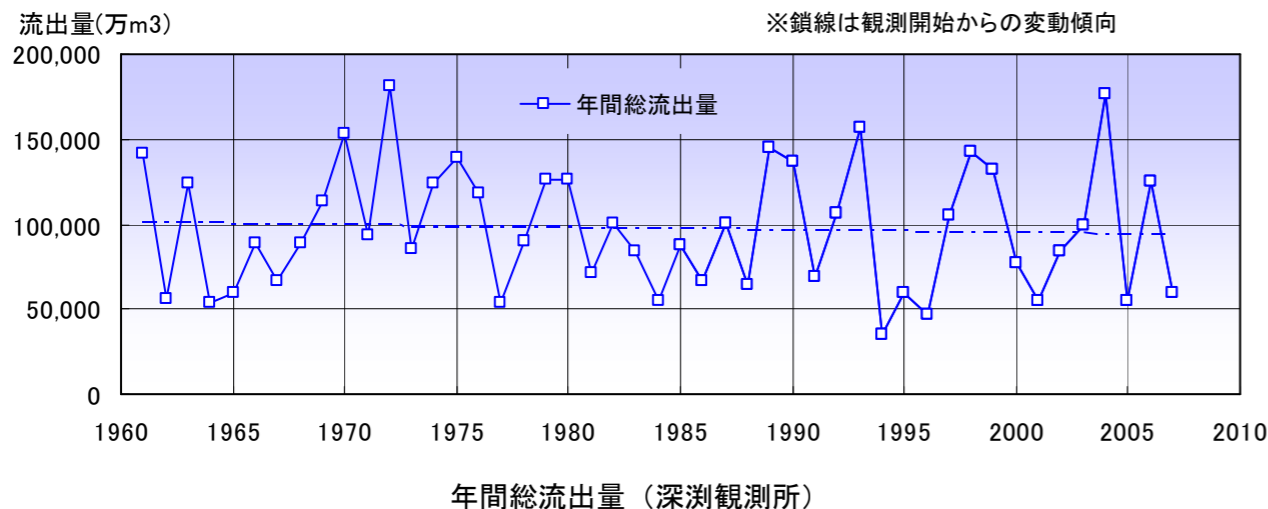
### 物部川における過去からの流量変化（低下傾向の有無）の確認

#### I 物部川下流部における流量の変化傾向

物部川下流部においては、深淵観測所（3.6km：S36～H19）で水位・流量観測が行われている。

##### ①深淵観測所の年間総流出量

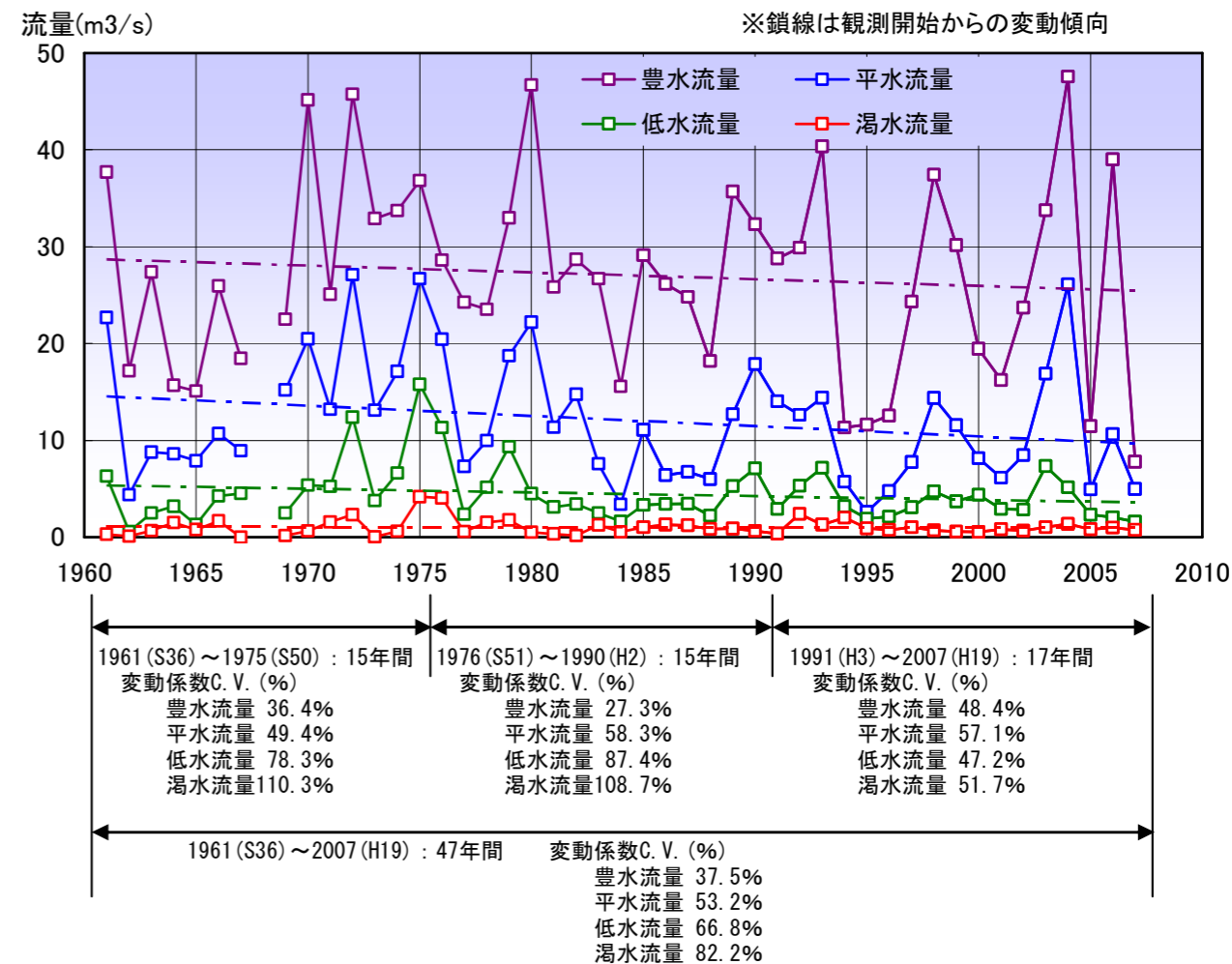
年間総流出量（流れる水の年間の総量）の経年変化をみると、特に減少傾向にはない。



##### ②深淵観測所の流況

流況（流量の状況）の経年変化をみると、豊水～平水流量については、近年（H3～H19）は流量の増減の幅がやや大きくなってきている（H6～8やH17・19の流量が少ない）。このため、流量の観測開始からの変動傾向をみると、やや減少する傾向がみられる。（ただし、前述のとおり、年間総流出量に特に減少傾向はない。）

一方、平水～渇水流量については、特に流量の減少傾向はみられず、さらに、近年（H3～H19）は流量の増減の幅も小さくなり、毎年ほぼ同じ流量となってきた。（ダムにより渇水時の流量の安定化が図られていることが伺える。）



※変動係数C.V.:  
データのばらつき(今回の場合は、年ごとの流量の増減)の幅を、具体的に数字で表す手法として用いられる方法。  
変動係数とは、相対的に分布のばらつきの大きさを表すことができるもので、変動係数が小さくなればデータ間の増減の幅が縮小し、大きくなれば拡大していることを示す。  
したがって、複数の年代ごとに、その年代の流量データの変動係数を求め、これを他の年代と比較することにより、増減の幅の変化傾向を知ることができる。(ただし、変動係数がどの程度なら「増減の幅が大きい」というような目安はない)

変動係数を求めるには、データの標準偏差と平均値を算出し、次の計算式のように標準偏差を平均値で除して求める。  
変動係数(%) = 標準偏差 ÷ 平均値 × 100  
なお、標準偏差とは、データがどの程度散らばっているのかを表す指標で、個々のデータと平均値の差から求める。

#### 流況（深淵観測所）

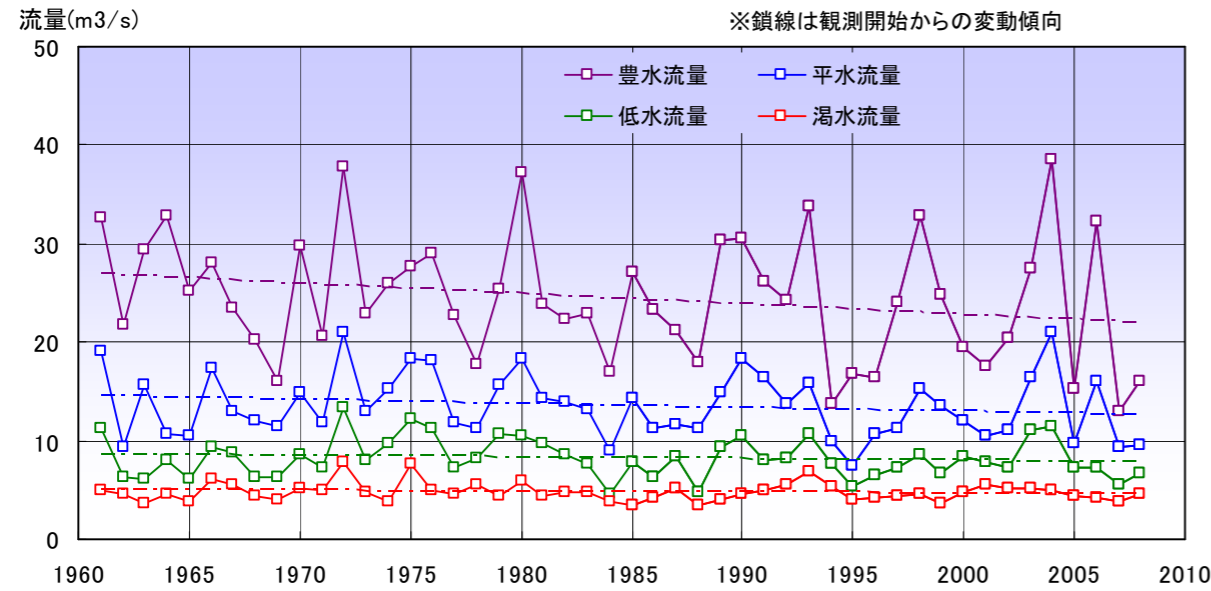
注：豊水流量：1年を通じて95日はこれを下回らない流量  
平水流量：1年を通じて185日はこれを下回らない流量  
低水流量：1年を通じて275日はこれを下回らない流量  
渇水流量：1年を通じて355日はこれを下回らない流量

## Ⅱ 上流部から流れてくる流量の変化傾向

上流部から流れてくる流量の変化傾向について、永瀬ダム流入量・放流量（S36～H20）により確認する。

### ①永瀬ダム流入量

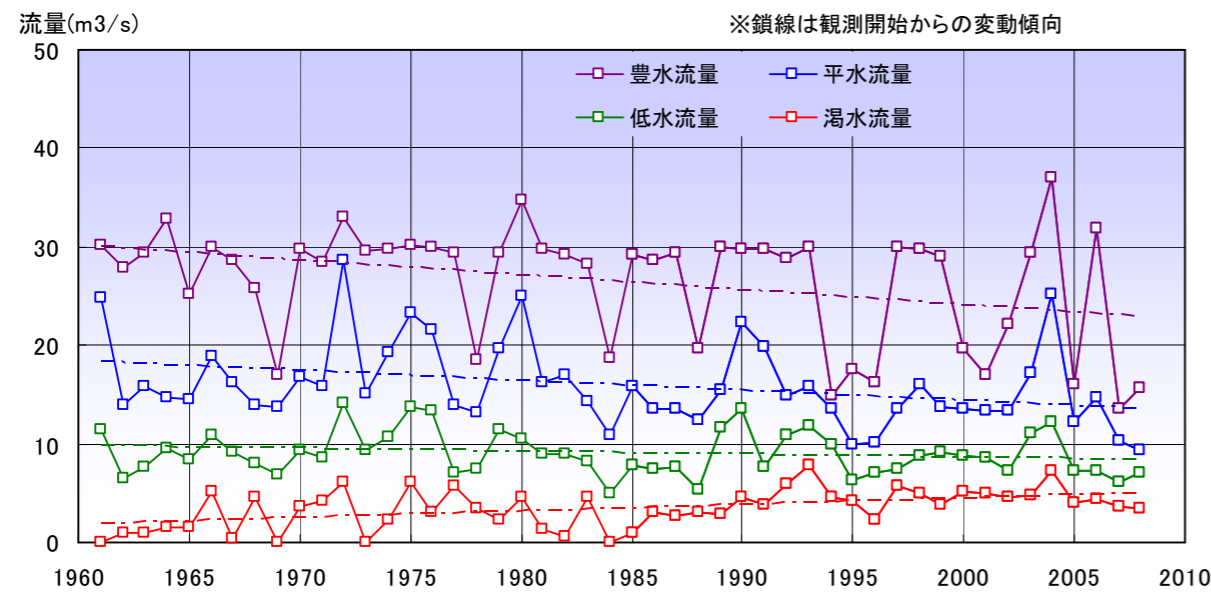
永瀬ダム流入量について、流況の経年変化をみると、豊水流量についてやや減少する傾向がみられるものの、平水～濁水流量については、過去からの変化はない。



流況（永瀬ダム流入量）

### ②永瀬ダム放流量

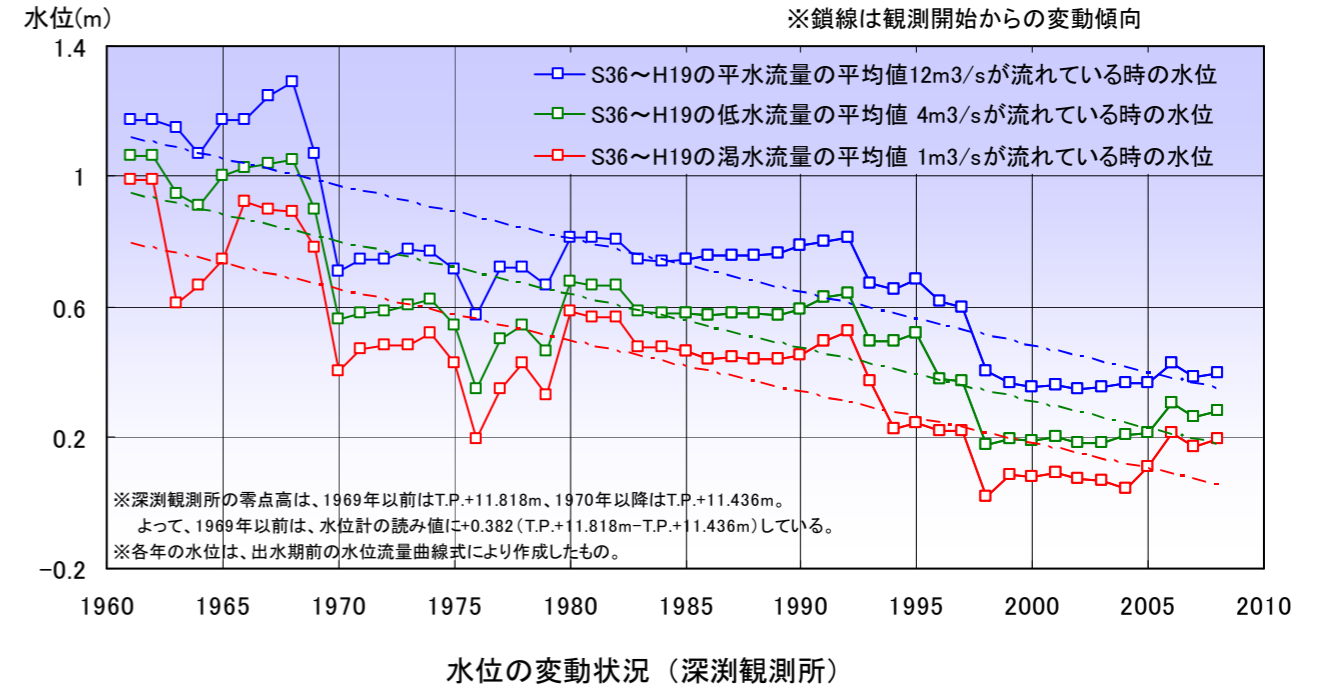
永瀬ダム放流量について、流況の経年変化をみると、豊水～平水流量についてやや減少する傾向がみられる一方で、濁水流量については過去から増加傾向となっている。（濁水時にも流量を確保するダム運用（放流）を行っていることが伺える。）



流況（永瀬ダム放流量）

## Ⅲ 物部川下流部における水位の変化傾向

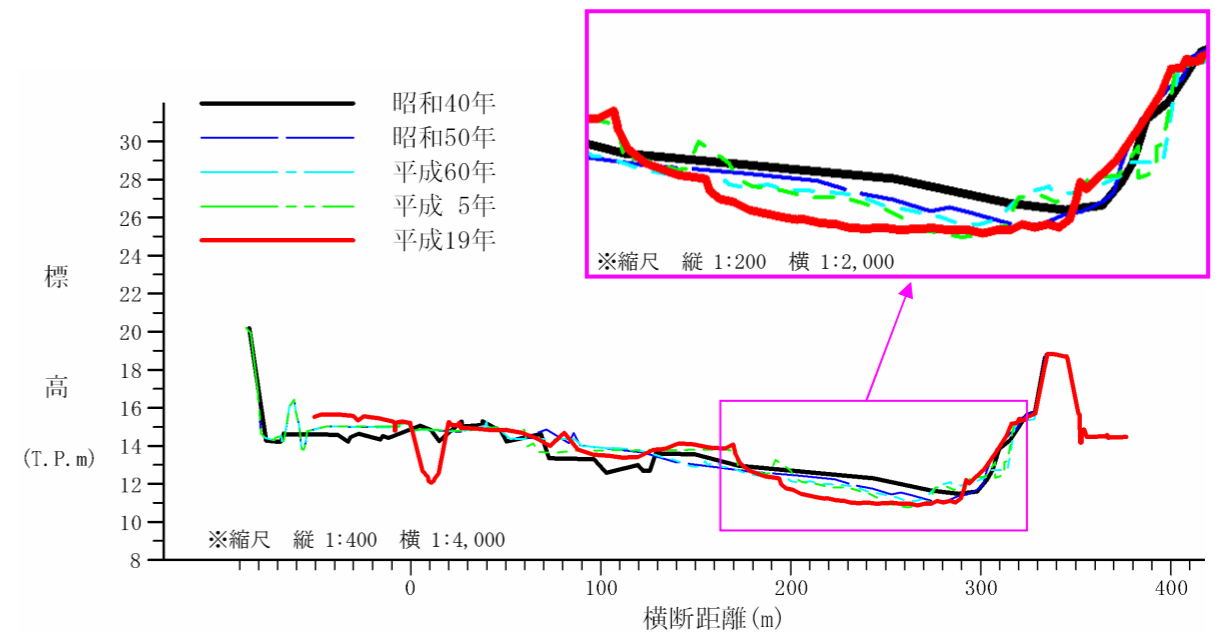
物部川下流部における水位の変化傾向として、深淵観測所において同じ流量が流れている場合の水位の経年変化を確認した結果、過去から大幅な減少傾向となっている。



水位の変動状況（深淵観測所）

これは、物部川では、主に昭和 40 年代に行われた堰の統廃合の影響により、全川的に河床が低下したことが要因となっている。

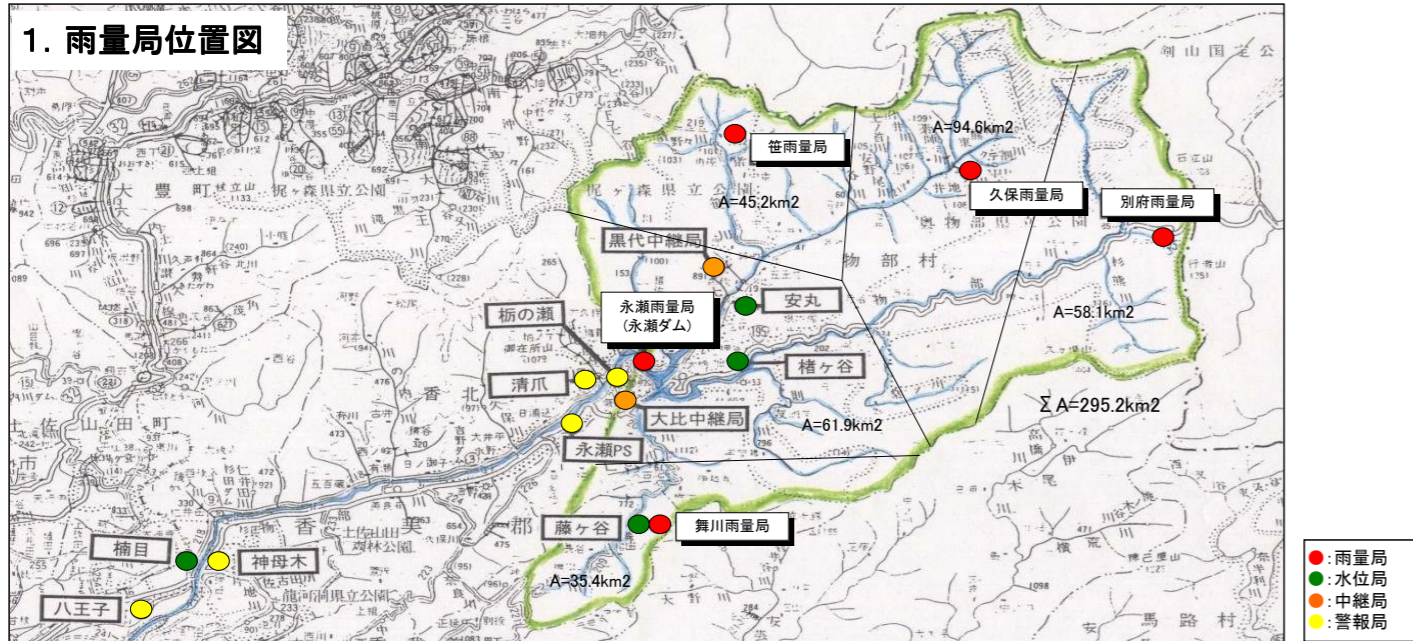
また、現在では、河床は安定傾向となり、洪水の流下に関する断面積は経年的に概ね変化していないものの、最深河床の低下や低水路幅の拡大はみられ、このために水位が低下している。（この傾向は全川的にみられる）



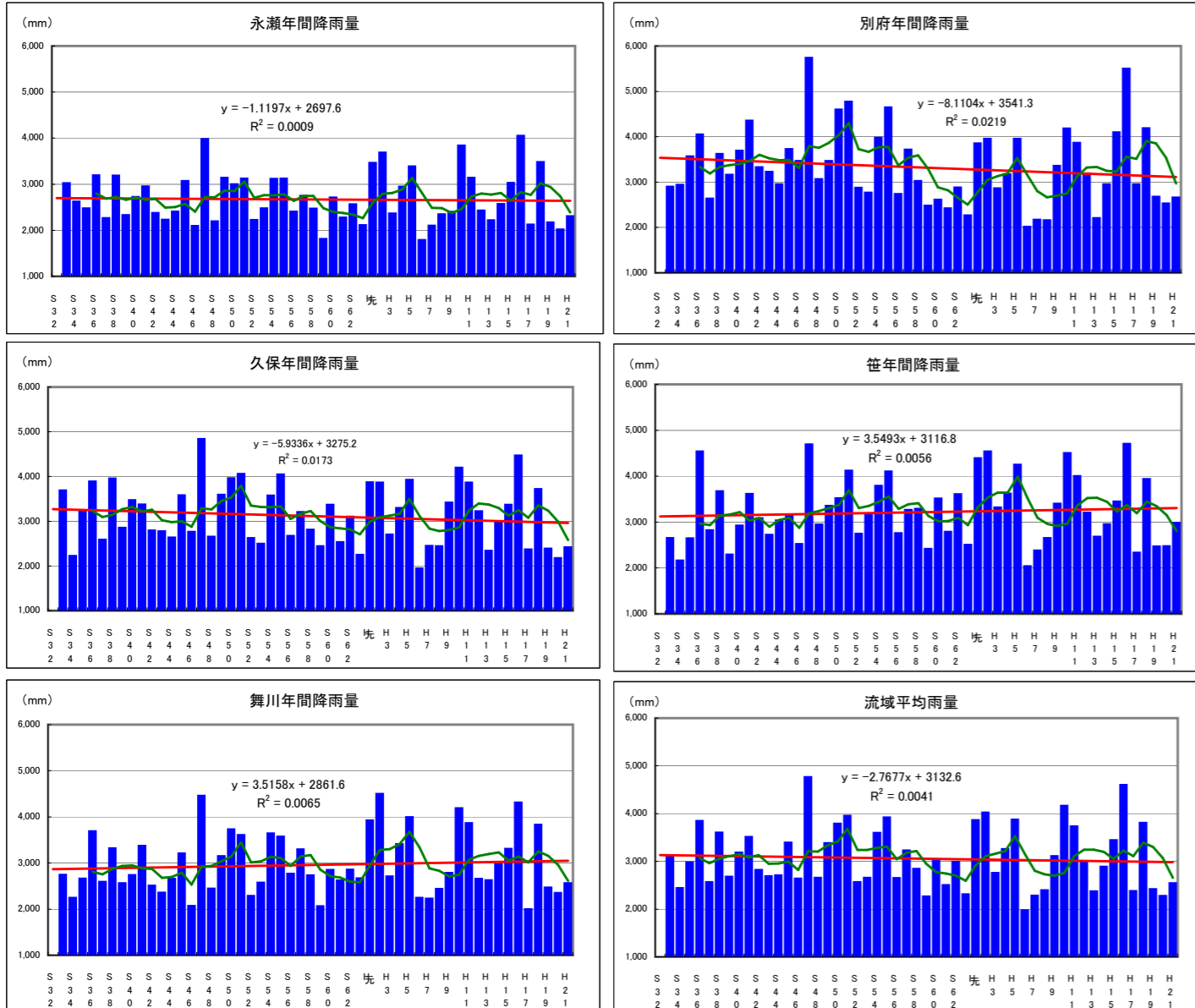
深淵観測所（3.6km地点）の河道断面の経年変化

# 永瀬ダムデータから見た河川状況

## 1. 雨量局位置図

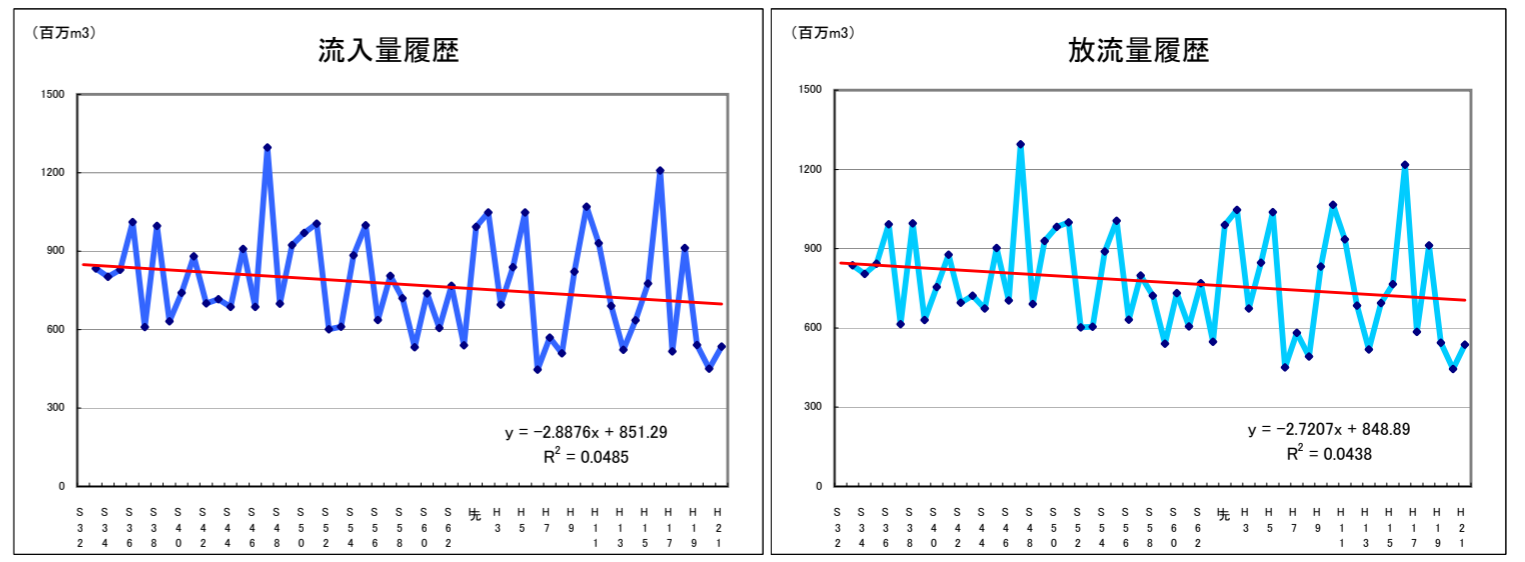


## 2. ダム上流雨量観測所の雨量履歴



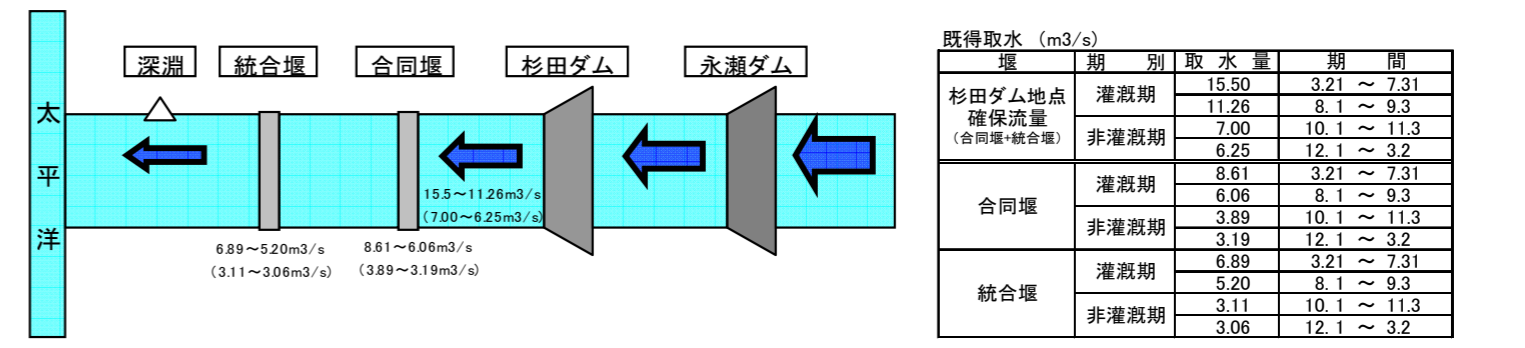
考察  
 ・流域平均年間降雨量については、近似直線によると年々少雨傾向になりつつある。また、少雨と多雨の年降雨量の差が大きくなっている。  
 地点雨量では、久保、笹、舞川は、年間降雨量が約3,000mmに対し、永瀬は、約2,600mmと少なく、別府は、約3,200mmと多い。

## 3. 流況履歴

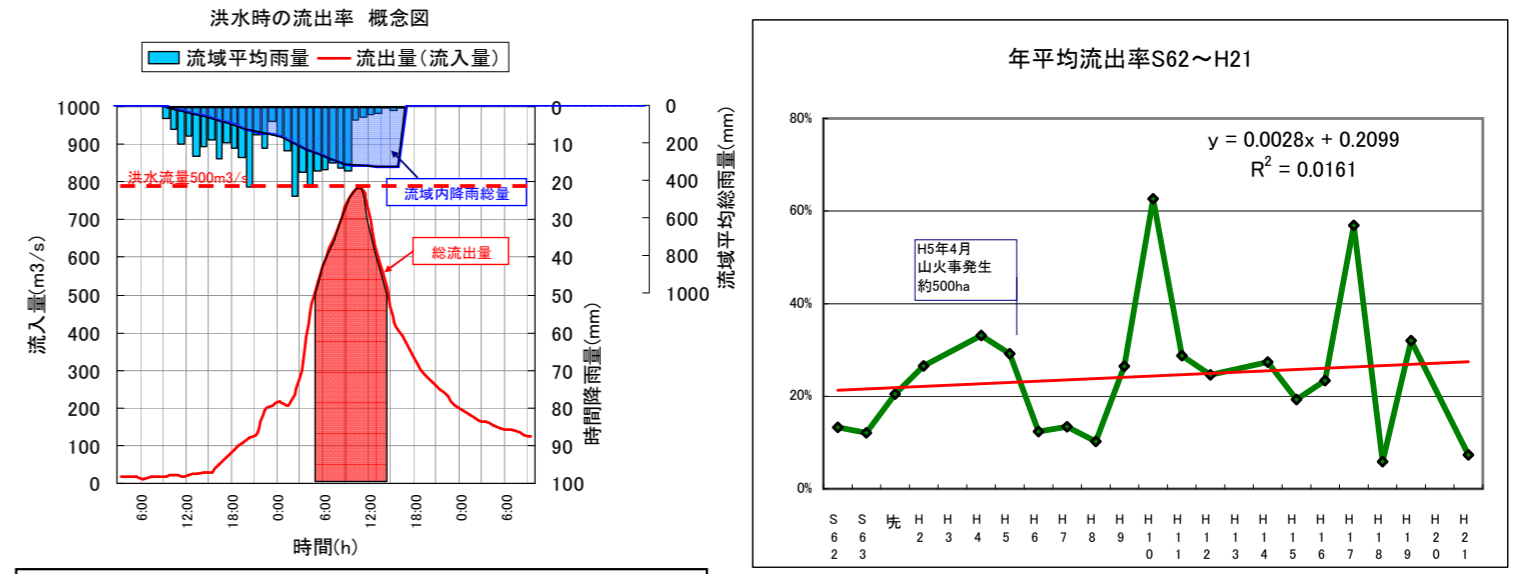


考察  
 ・流入量及び放流量の年間総量については、ほぼ同じ値を示している。また、両近似直線より、年間総量は減少傾向にあることがわかる。

## 4. 利水ルール



## 5. 主要洪水の流出率



流出率 = 総流出量(流入量) ÷ 流域内降雨総量(流域平均総雨量 × 流域面積)

考察・経緯  
 ・流出率は、年平均流出率を用いてグラフ化しているため、洪水の少ない年については、1洪水の流出率の影響が大きくなる。また、流入量が1000m³/sを越えるような洪水または、2桁降雨が連続して10時間以上降るような洪水についても、流出率は高くなる。すなわち、降雨の状況によっては、同じ降雨量、流入量であっても流出量に差が出てくる。  
 なお、全体的な傾向としては、流出率が高くなる傾向にあり、山の保水力が低くなってきていると考えられる。

# 物部川清流保全推進協議会

水量・水質、生態系・川と人とのかかわり部会

日時：平成22年3月19日（金）

10:00～12:00

場所：高知県立青少年センター

高知県環境共生課

## 物部川清流保全計画

平成20年7月策定

目標 『清流の再生を目指す』

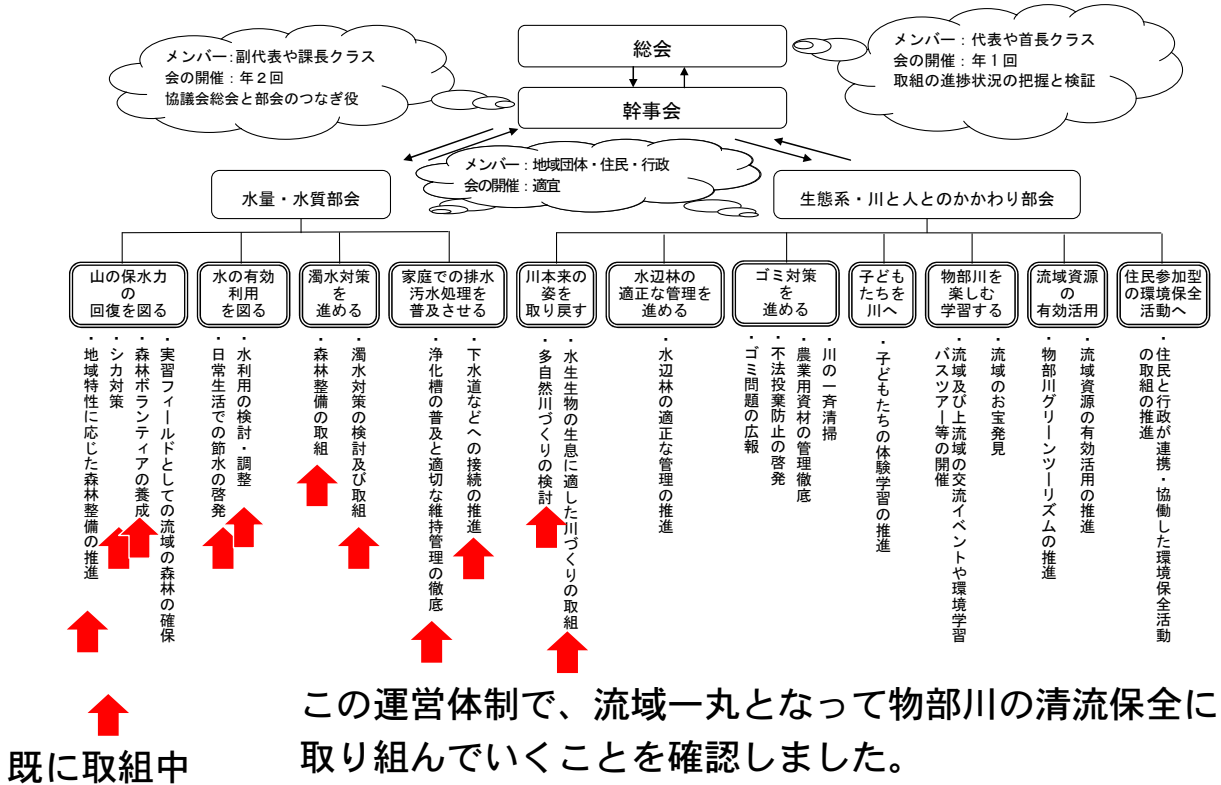
キャッチフレーズ

天然アユが湧き立つ川 へ



- 目標1 山川海まで途切れなく水が流れる川
- 目標2 濁りのない安定した水質の川
- 目標3 ゴミがなく、瀬・淵・トロのバランスがとれ、天然アユをはじめとし多種多様な生き物が生息する川
- 目標4 子どもたちをはじめ、人々でにぎわっている川
- 目標5 流域の人々と行政の連携・協働によって、水環境の保全に向けた取組が行われている川

# 物部川清流保全推進協議会 運営体制





## 山の保水力の回復を図る

### 計画

- ・ 地域特性に応じた森林整備の推進
- ・ シカ対策
- ・ 森林ボランティアの養成
- ・ 実習フィールドとしての流域森林の確保

### 課題

- ・ 度重なる台風による山の荒廃と保水力の低下
- ・ 源流部での棚田の減少（水源涵養力の低い林地化）
- ・ 民有林の間伐（山の価値低下により所有者の関心低下・不在村地主への連絡調整等）
- ・ シカの食害（広葉樹林でもシカが踏み荒らす→土壌流出）
- ・ 山の価値低下にともなう関心の低下

### 必要な対策

- ・ 材価を安定させるため、木材を有効利用するハード・ソフト事業の検討→間伐の促進
- ・ 不在村地主対策の推進
- ・ 体験フィールドとして利用できる森林の確保
- ・ シカ肉消費の拡大（学校給食での利用等の検討）

### 必要な対策（部会の中での意見）

- ・ 間伐の促進・・・いくらやろうとしても、その思いを山主に届けないといけない。（不在村地主も含め、情報を手元に届ける）
- ・ 流域の農業振興・山の保水力の回復には、それを担ってくれる人々が山で生活できる基盤づくりが必要。（水源の集落は過疎・高齢化等が急速に進んでいる。）
- ・ シカ対策・・・ネット張り、駆除等だけでなく、利用促進して産業として成り立つ仕組みづくり

## 水の有効利用を図る

### 計画

- ・ 日常生活での節水の啓発
- ・ 水利用の検討・調整
- ・ 家庭や事業場での雨水貯留の推進

### 課題

- ・ 本川流量の極端な減少
- ・ ダムへの堆砂による能力低下
- ・ 川の水を利用しているという住民の意識が希薄
- ・ 一度取水したら、本川に返さない物部川の水利用の形態

### 必要な対策

- ・ 灌漑区域図・上水道への利用等の現状を市民へ啓発
- ・ 貯砂ダムの堆砂除去、ダム本体の浚渫
- ・ 節水の啓発
- ・ 本川に水を返す事の可否・方法の議論

### 必要な対策（部会の中での意見）

- ・ 節水の啓発・・・広報誌等で上水道を利用している住民への啓発  
（絶対量が減っている事等、現状認識の共有、蛇口をひねったら出てくる水は物部川の水であるという当事者意識を持ってもらう取り組み）

## 濁水対策を進める

### 計画

- ・ 森林整備の取組
- ・ 濁水対策の検討及び取組

### 課題

- ・ ダム貯水池内の土砂による濁水の発生
- ・ 山林・崩落現場からの土砂（粘度層？）流出による濁水発生
- ・ 代掻き時の農業濁水の発生

### 必要な対策

- ・ ダム貯水池の浚渫、上流の貯砂ダムの土砂除去（実施中）
- ・ 濁水塊の早期排出の取組、選択取水等の運用（実施中）
- ・ 濁水原因物質の調査検討（環境研究センターで来年度より）
- ・ 物部川濁水対策検討会での議論（実施中）
- ・ 代掻き時期に濁水防止の啓発（実施中）

### 必要な対策（部会の中での意見）

- ・ ダム貯水池の浚渫と上流の貯砂ダムの土砂除去・・・実施中
- ・ 濁水塊の早期排出の取組、選択取水等の運用・・・実施中
- ・ 濁水原因物質の調査検討・・・環境研究センターで来年度より実施予定
- ・ 物部川濁水対策検討会での議論・・・・・・・・・・実施中
- ・ 代掻き時期に濁水防止の啓発・・・・・・・・・・実施中
- ・ 代掻き濁水の現状把握・・・・・・・・・・実施中

## 家庭での排水・汚水処理 を普及させる

### 計画

- ・浄化槽の普及と適切な維持管理の徹底
- ・下水道などへの接続の推進

### 課題

- ・市街化調整区域外の急速な宅地化に伴う、合併浄化槽排水の用水路への排出増加（規定値内の排水を止めることは出来ないが、適正に管理されている事が前提）（農業用水量を減らすと用水路に生活排水のみが滞留するのではという懸念）
- ・下水接続の費用が負担できない世帯の生活排水が雨水の溝に流されている（戸板島の生活排水）

### 必要な対策

- ・浄化槽の適切な管理についての啓発活動
- ・四万十川方式（浮き島浄化）等の可能性も含めた生活排水浄化の検討

### 必要な対策（部会の中での意見）

- ・浄化槽の適切な管理・・・浄化槽の普及だけでなく、その適切な管理の啓発
- ・水質浄化への取組推進・・・えひめAIや、水切り袋等の普及への取組

## 川本来の姿を取り戻す

### 計画

- ・ 多自然川づくりの検討
- ・ 水生生物の生息に適した川づくりの取組

### 課題

- ・ 本川流量の極端な減少
- ・ 河床の低下
- ・ 崩落土砂の流入等による河川の荒廃
- ・ 渇水時に魚道に水が流れていない
- ・ アユの産卵に適した粒径の砂利河床の減少

### 必要な対策

- ・ 山の保水力回復の議論
- ・ 多自然川づくりの検討（協働の森の川版等も検討）
- ・ 関係者の協議
- ・ 物部川の水生生物・水質調査項目への砂利粒径の追加（環境研究センターで来年度実施予定）

### 必要な対策（部会の中での意見）

- ・ 山の保水力回復・・・山の保水力回復を図るの中で必要な対策を実施
- ・ 現状の把握・・・環境ものさしとして水生生物の現状を把握
- ・ 多自然川づくり・・・協働の川のような取組の誘致

## 水辺林の適正な管理を進める

### 計画

- ・ 水辺林の適正な管理の推進

### 課題

- ・ 下流域の砂州等の樹林化等

### 必要な対策

- ・ 堤外地の樹木の除伐等適切な管理
- ・ 水辺の人工林の間伐や植林等（住民参加や企業等との協働でできる場所等の選定）

### 必要な対策（部会の中での意見）

- ・ 砂州等の樹林化への対策・・・住民参加で除伐できる場所等があれば選定
- ・ 水辺林の間伐対策・・・・・・・・間伐可能な場所の選定

## ごみ対策を進める

### 計画

- ・ ごみ問題の広報
  - ・ 不法投棄防止の啓発
  - ・ 農業用資材の管理徹底
  - ・ 川の一斉清掃

### 課題

- ・ 流木による漁船の破損
- ・ 周辺漁港への糞殻・藁等の流入

### 必要な対策

- ・ 上流での除去
- ・ 藁の利用可能性の検討（栗東の厩舎で寝藁に使えないか等）
- ・ 不法投棄防止・ごみ問題の啓発
- ・ 農業用資材の管理についての啓発
- ・ 一斉清掃への積極的参加の呼びかけ

### 必要な対策（部会の中での意見）

- ・ 一斉清掃への積極的参加の呼びかけ・・・参加者の拡大につながる、効果的なPRの実施（流域企業等への開催情報提供等）
- ・ ごみ問題の啓発・・・粗大ごみの不法投棄等の予防につながる啓発

## 子ども達を川へ

### 計画

- ・子どもたちの体験学習の推進

### 課題

- ・体験学習支援体制の強化

### 必要な対策

- ・四万十で実施している身近な川の清流度調査の物部川への導入と、環境  
究センターによる支援の提供（来年度より）
- ・間伐・植樹体験等に子供でも参加できるような実習フィールドの確保

### 必要な対策（部会の中での意見）

- ・体験学習支援  
体制の強化・・・各団体ですでに実施している体験学習等の情報収集と  
必要な人への提供  
体験型イベント等の開催



## 物部川を楽しむ 学習する

### 計画

- ・ 流域及び上流域の交流イベントや環境学習バスツアー等の開催
- ・ 流域のお宝発見

### 課題

- ・ 多彩なイベントが開催されているが、中心となって活動している人が固定化している（負担増）
- ・ 流域のお宝の見える化

### 必要な対策

- ・ 人づくり・組織づくりと、住民参加型の保全活動や物部川を楽しむ中から普及啓発につなげていけるような工夫
- ・ 流域の環境・環境活動等の資源情報の共有

### 必要な対策（部会の中での意見）

- ・ イベントの開催・・・人づくり・組織づくりと、住民参加型の保全活動や物部川を楽しむ中から普及啓発につなげていけるような工夫をしたイベントの開催
- ・ イベント情報の共有  
と効果的な発信・流域で開催されている環境保全イベントの情報や、実施している団体の情報の把握・共有と、効果的な情報発信

## 流域資源の有効活用

### 計画

- ・物部川グリーンツーリズムの推進
- ・流域資源の有効活用の推進

### 課題

- ・グリーンツーリズムプランの作成
- ・流域資源情報の共有
- ・流域で人が暮らしていけない

#### ★お宝マップ 例



### 必要な対策

- ・お宝マップの作成と、資源をつないでグリーンツーリズムプランの作成
- ・流域に人を呼ぶ催しの企画

### 必要な対策（部会の中での意見）

- ・流域の環境資源の  
情報発信・・・グリーンツーリズム等の開発・発信  
(まず、資源の情報共有と発信)

## 住民参加型の環境 保全活動へ

### 計画

- ・住民と行政が連携・協働した環境保全活動の取組の推進

### 課題

- ・多彩なイベントが開催されているが、中心となって活動している人が固定化している（負担増）
- ・流域のお宝の見える化

### 必要な対策

- ・人づくり・組織づくりと、住民参加型の保全活動や物部川を楽しむ中から普及啓発につなげていけるような工夫
- ・流域の環境・環境活動等の資源情報の共有

### 必要な対策（部会の中での意見）

- ・イベントの開催・・・人づくり・組織づくりと、住民参加型の保全活動や物部川を楽しむ中から普及啓発につなげていけるような工夫をしたイベントの開催
- ・イベント情報の共有  
と効果的な発信・流域で開催されている環境保全イベントの情報や、実施している団体の情報の把握・共有と、効果的な情報発信

環境への取り組みを通して  
環境保全の取り組みを負から  
正のスパイラルへ転換する

現在負のスパイラル

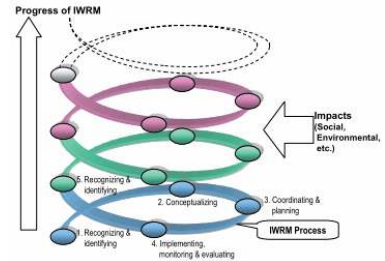


図 IWRM スパイラル

正のスパイラルへ転換

転換

流域資源の再確認

資源保全  
の必要性  
認識

山林を守る人が  
地域に戻る



高知県環境共生課

## 前回までのまとめ

個々に取り組んでいくだけでは効率が悪いので、体系だった取り組みが必要(共有)

・各団体で役割分担シートに○をしてきてもらう。

この中でどの部分なら担えるか

その中で何に取り組むか

団体名	No	水質・水質保全						生態系・川と人とのかわり合						
		山の保水力の回復を図る 山林：樹田：シカ	水の有効利用を図る 水利用：節水	漏水対策を進める 漏水：代掻き	家庭での排水汚水処理を推進させる	川本来の姿を取り戻す	水辺林の適正な管理を進める	ゴミ対策を進める	子どもたちを川へ	物部川を楽しむ学習する	流域資源の有効活用	住民参加型の環境保全活動へ		
1	JJAとさかみ													
2	JJA長岡													
3	JJA南国													
4	物部川土地改良区連合													
5	山田藩弁所土地改良区		○			○	○							
6	高知県農業協同組合													
7	物部川漁業協同組合													
8	香美市商工会		○						○	○	○	○	○	○
9	香南市商工会													
10	南国市商工会													
11	香美森林組合													
12	物部森林組合													
13	クアアリアルネットワーク													
14	こみのない物部川をつくる連絡会		○	○				○	○	○	○	○	○	○
1	企画課		○					○	○	○	○	○	○	○
2	農政課		○			○								
3	農工観光課													
4	都市計画課						○							
5	下水道課													
6	環境課									○				○
7	林政課		○	○				○	○					○
8	水道課													
9	学校教育課		○											

# 効果的な取り組みを行うために いろんな取り組みを個々にやるだけではなく、 連携をとりながらやっていく必要がある。

- 予算の裏付けがあると進むもの
  - 永瀬ダムの濁水対策
  - 森林組合や森林管理局、行政が行う間伐など
- 熱意を持って汗をかければ出来るもの
- いろんな組織が連携してやれば、一層効果があがるもの

やれることから  
始めよう

- すぐに結果がでるもの
- 時間をかければ出来るもの

高知県環境共生課

## 事務局での取り組み

県庁HP



高知ファンクラブ



流域の取り組み情報の  
企業等への提供



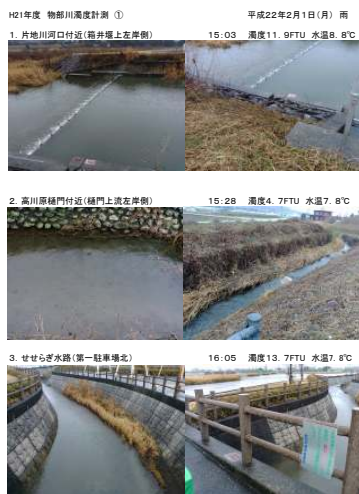
高知ファンクラブ



観光協会

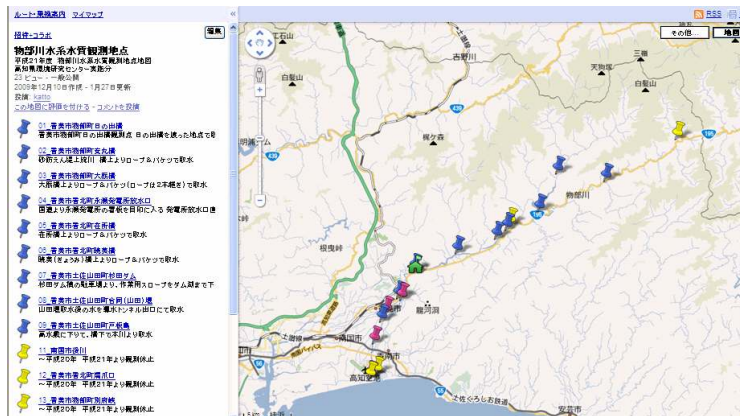
# 事務局での取り組み

## 農業濁水現状把握



香美市・香南市  
南国市・高知県で実施

## 水質・水生生物調査



環境研究センター実施

高知県環境共生課

## 本日協議すること

来年度、当協議会でこういった取組を重点的に進めていくのか。

- 部会の運営
- テーマ

高知県環境共生課

# 物部川清流保全推進協議会スケジュール

月		
平成20年度	11月	委員の委嘱
	12月	↓
	1月	
	2月	
	3月	
	3月	
平成21年度	4月	物部川清流保全推進協議会第1回総会 4月27日開催 ・設置要綱の承認、会長・副会長の選任 ・幹事会、部会についての承認
	5月	物部川清流保全推進協議会部会の開催 (適宜 年数回) ・既存の取組等の把握及び現状課題の分析 ・今後の取組についての検討
	6月	
	7月	
	8月	物部川清流保全推進協議会合同部会(自治体) 7月28日開催 ・課題の共有
	9月	↓ ・流域団体への計画主旨説明 ・部会への職員派遣要請
	10月	
	11月	物部川清流保全推進協議会合同部会(流域団体) 11月27日開催 ・課題の共有
	12月	↓
	1月	
	2月	
	3月	物部川清流保全推進協議会合同部会(流域団体) 3月19日開催 ・次年度に向けて役割分担・取り組みの方向性

# 物部川清流保全推進協議会部会構成団体取組状況

資料 4 平成22年3月19日現在

	長期的に計画し、取り組んでいること	短期的に計画し、取り組んでいること	身近な事として今後どういふ具体的な行動をおこしていくか。 (おこすべきか)	活動していくうえでの要望事項(誰に・何を)
JAとさかみ	★青壮年部を中心に物部川をもっときれいにする取り組みへの積極参加 ★源流域を守る人々の生活を支えるために、袖で農業所得を高める取り組みをしている。		★山で人が生活できる基盤を確保すること	★水をきれいしましょうだけでなく、水量を確保し、農業だけでなく住民の命を支える水、それを守る事が必要だということに気づいてもらう必要がある。 そのためには、住民の方々に目を向けてもらう必要がある。
JA長岡	★青壮年部を中心にボランティア活動・イベントへの出展等を行っている。			
JA南国	★青壮年部を中心にボランティア活動・イベントへの出展等を行っている。			
物部川土地改良区連合	具体的計画は無いが、山の保水に関心があり、水質改善にも留意している。			構成している6土地改良区にも専任者はいないので、残念ながら、まとまった運動になりにくい。 連合の収入源の賦課金が少額であり活動の制約になっている。
山田堰井筋土地改良区	水源涵養林の育成	機関誌にて「濁水を流さないで」を記載し呼びかけなど	各団体内部で意識の向上	
高知県漁業協同組合				
物部川漁業協同組合	人工の産卵場を造成してアユの産卵を助勢している。 河口の開削を行い環境整備を実施している。 水辺林の間伐を行い、環境整備を実施している。 産卵場へ地域の小学生を招き、アユの静態等環境学習会を実施している。 また、水中眼鏡やチャン鉄砲等を貸出している。 上記の事業を実施して、魚が物部川に帰ってくる様に努力しています。		物部川沿線農業者と合同で河川清掃を予定している。	
香美市商工会	山林に被害をもたらすシカを駆除し、そのシカ肉の特産品化を目指す。 現在、シカ肉バーガー、ソーセージ等の販売を行っているが、今後、市内飲食店にて独自のメニューを開発したい。			
香南市商工会				
南国市商工会				
香美森林組合	★間伐の推進		★山の所有者に間伐をしようという気持ちを持ってもらう必要がある。 山を持っている人にこの思いを届ける必要がある。	
物部森林組合	★間伐の推進		★所有者の負担は少なくして、間伐できるような環境が整ってきているが、相続してなかったり、子どもさんが町外に住んでいたりしたら先に進まない。(不在地主主への対策)	
アクア・リプル・ネットワーク	森林の果たす公益的機能を上下流域に暮らす住民が共通認識し、森林保全に対する気運の高揚や、地域間の連携意識の醸成につながる運動を展開	物部川流域での一斉清掃作業(特に物部川とその周辺を対象) 住民を対象とした、間伐並びに植樹体験の企画 流域にある環境課題を広報し、環境保全に対する住民息しを呼び起こす企画	現在の活動を継続していくためには予算の裏付けがある。 民間レベルで予算を確保することは困難がある。 このため、予算確保については今後とも行政側の支援がいる。 組織そのものの存在価値を検証のうえ、民間と行政が更なる協働に向けた取り組みができればよいと思う。	森林保全を含めて環境保全に対する取り組みには時間があるが、大切なことは流域間の共通認識と考えられる。 当ネットワークの事務局になっている物部川流域ふるさと交流推進協議会(流域3市より構成)の存在意義は極めて大きいと思われる。
ごみのない物部川をつくる連絡会	ラブリバーパートナーシップを結んでいる団体を中心に、物部川全体で清掃・美化活動を年4回位行っている。 水のあるゴミのない物部川をめざして	川の水質調査(地点を定めて6月に実施)アクアリプルといっしょに環境バスツアー等も行っている。 市民により物部川の実態を知って行動してほしいから	具体的には、行動を随時市民に県民に広報していく 自分たちの活動を自己満足に終わらせないこと。	みんなの物部川であることを県民として共有していく 子ども達にゆずれる地球をめざして! 私たち1人ひとりのモラルの向上を特に望みます。

★印については、前回の部会(平成21年11月27日開催)での意見より事務局で記入



